

穂高広域施設組合
新ごみ処理施設整備・運営事業
審 査 講 評

平成29年11月

穂高広域施設組合
新ごみ処理施設整備・運営事業者選定委員会

穂高広域施設組合 新ごみ処理施設整備・運営事業（以下「本事業」という。）における民間事業者の選定を公平かつ適正に実施するため、穂高広域施設組合 新ごみ処理施設整備・運営事業者選定委員会（以下「選定委員会」という。）が設置された。

平成 28 年 11 月に第 1 回選定委員会を開催し、約 1 年間にわたって実施方針や要求水準書などの募集要項について審議を重ねるとともに、応募グループ（以下「応募者」という。）の提案内容について厳正かつ公正な審査を行い、落札候補者を決定した。

本審査講評は、選定委員会におけるこれまでの審議や審査の過程及び審査の結果について公表する。

穂高広域施設組合 新ごみ処理施設整備・運営事業者選定委員会

委員長 堀尾 正靱

副委員長 小林 潤

委員 高村 秀紀

委員 野本 修

委員 平林 明人

委員 村上 広志

委員 藤澤 泰彦

－ 目 次 －

1. 総則	1
2. 審査の方法	3
3. 選定委員会の開催及び審議	8
4. 審査結果	9
5. 総評	15

1. 総則

1) 事業概要

本事業における施設の整備及び運営は、公設民営（DBO方式）により実施する。

事業者として選定された民間事業者は、必要に応じて特定共同企業体を設立し、本施設の設計・建設に係る業務を行う。

さらに、民間事業者は、特別目的会社を設立し、20年1ヵ月間の運営期間にわたって、本施設の運営に係る業務を行うものとする。

なお、民間事業者は、約30年間のプラント使用を前提として設計・建設及び運営を行うこととする。

(1) 事業名

穂高広域施設組合 新ごみ処理施設整備・運営事業

(2) 事業場所

長野県安曇野市穂高北穂高1302-11外

(3) 施設概要

ごみ焼却施設にあつては、搬入される処理対象物を安定的かつ効率的に処理するとともに、焼却灰などの資源化や熱エネルギーの有効活用を図る。

不燃物処理施設にあつては、搬入される処理対象物を安定的かつ効率的に処理するとともに、処理残渣の減容化に努める。

(4) 年間処理計画量

ごみ焼却施設 30,588t/年

不燃物処理施設 619t/年

(5) 施設規模

ごみ焼却施設 120t/日（60t/24h×2炉）

不燃物処理施設 3t/日

※上記施設規模は、運営期間にわたる計画年間処理量により民間事業者の提案とする。

(6) 処理方式

ごみ焼却施設 全連続燃焼式（ストーカ式または流動床式）

不燃物処理施設 破砕、選別

(7) 事業期間

建設期間：平成30年4月から平成33年2月末

運営期間：平成33年3月から平成53年3月（20年1ヶ月）

(8) 事業方式

本施設の整備・運営は公設民営（DBO方式）により実施する。

(9) 契約の形態

本組合は、事業者には本施設の設計・建設業務及び運営業務を一括して請け負わせ、又は委託するために、落札候補者と本事業に係る基本協定を締結する。

また、本組合は、この基本協定に基づき、建設請負事業者と本事業に係る建設工事請負契約を締結するとともに、運営事業者と本事業に係る運営業務委託契約を締結する。

2) 事業スケジュール

本事業に関する主要なスケジュールは、以下のとおりである。

(1) 実施方針の公表	平成28年12月16日
(2) 入札公告、募集要項の配布開始	平成29年4月17日
(3) 資格審査申請書の受付締切	平成29年5月12日
(4) 入札書類の受付締切	平成29年8月21日
(5) 非価格要素審査、価格審査、総合評価	平成29年10月4日
(6) 基本協定の締結	平成29年11月以降
(7) 建設工事請負仮契約の締結	平成30年3月
(8) 契約議案の議会への提出	平成30年4月
(9) 運営業務委託契約の締結	平成30年4月
(10) 施設の完成及び引渡	平成33年2月
(11) 施設の供用開始	平成33年3月
(12) 契約終了	平成53年3月

2. 審査の方法

1) 審査体制

事業者の選定を公平かつ適正に実施するため、「新ごみ処理施設整備・運営事業者選定委員会」を設置した。

選定委員会を構成する委員（以下「選定委員」という。）は、次のとおりである。

選任区分	氏名	所属・役職等
学識経験者 (委員長)	堀尾 正韌	東京農工大学名誉教授
学識経験者 (副委員長)	小林 潤	工学院大学 工学部 機械工学科 准教授
学識経験者	高村 秀紀	信州大学 工学部 建築学科 准教授
有識者	野本 修	西村あさひ法律事務所 弁護士
行政委員	平林 明人	松川村長 穂高広域施設組合 副管理者
行政委員	村上 広志	安曇野市副市長 穂高広域施設組合 副管理者
行政委員	藤澤 泰彦	生坂村長 穂高広域施設組合 理事

2) 審査及び契約締結までの流れ

事業者選定の方法は、本事業の特性を踏まえ、価格のほかに、施設の性能、機能、技術等の提案及び環境、安全、循環型社会への配慮等を総合的に評価する必要があることから、総合評価方式による制限付き一般競争入札とした。

契約締結までの流れは、図1に示すとおりである。

なお、より一層の公平性・透明性を高めるため、選定委員に対して、提案書類によって応募者が特定できないよう審査を行った。

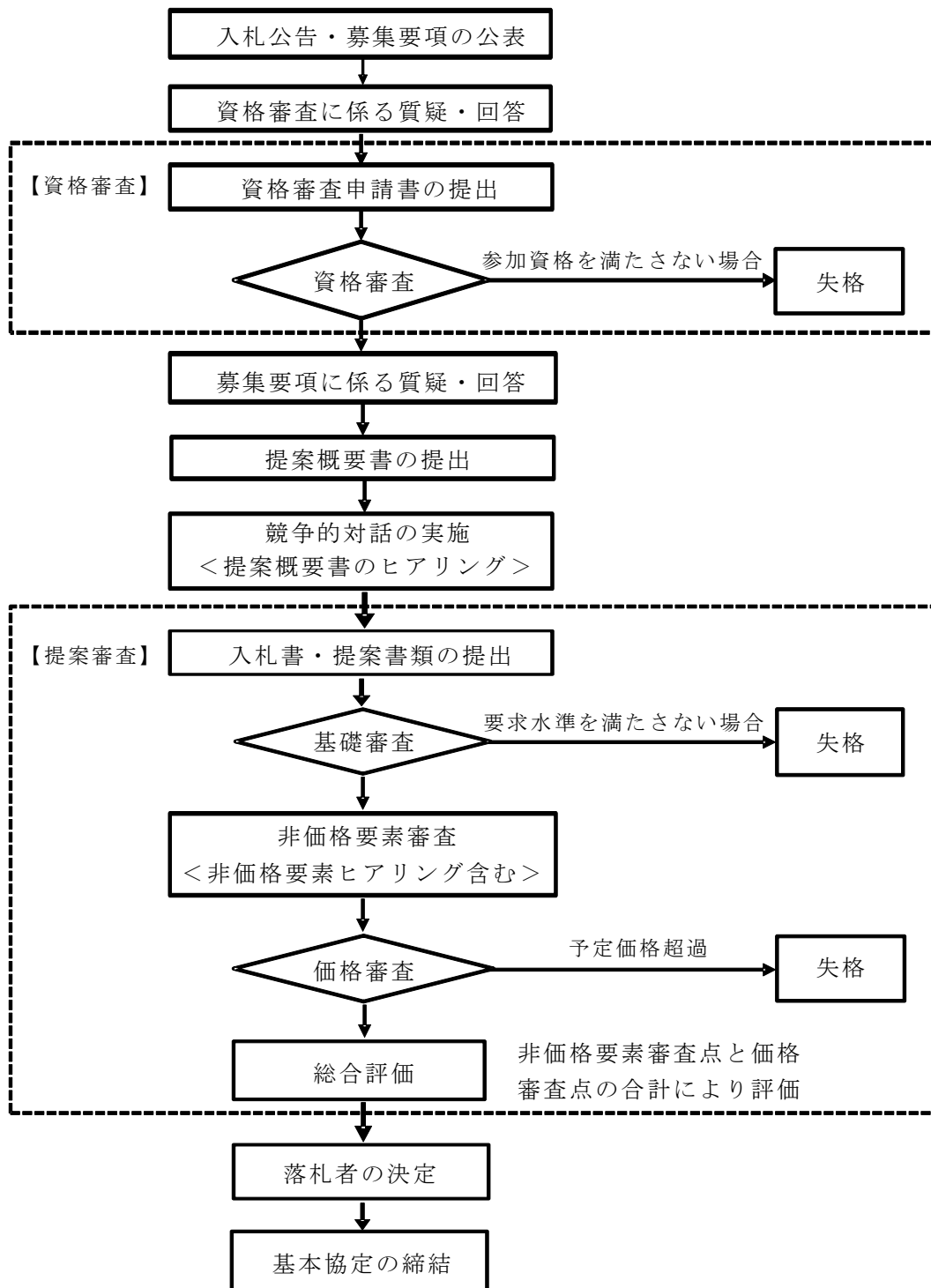


図1 契約締結までの流れ

3) 資格審査

資格審査では、応募者からの参加資格申請書等に基づいて、参加資格の確認を事務局にて実施する。

加えて提案内容の基本的な考え方を確認するため、提案概要書に関する競争的対話を実施する。

4) 競争的対話

競争的対話では、確実に発注者の意図（施設の整備に関する事項及び運営に関する事項）が応募者に伝わり、その意図が提案書に反映されるように、「組合の求める要求水準の確認」、「事業のリスク構造の明確化」といった観点から、発注者と応募者が対話を実施する。

5) 提案審査

提案書類の審査方法は、以下のとおり実施する。

(1) 基礎審査

基礎審査では、要求水準書等に規定された性能要件を満足できるか否かの審査を事務局にて実施する。

(2) 非価格要素審査

(1)の基礎審査を通過した応募者を対象に、非価格要素について審査し、非価格要素審査点を決定する。

なお、非価格要素審査に当たっては、提案内容に関する理解を深めるため、選定委員会によるヒアリングを実施する。

非価格要素審査点の配点は、60点とし、以下に示す各評価項目の得点の合算を非価格要素審査点とする。評価項目及び配点、採点基準は以下に示すとおりである。

① 評価項目と配点

評価項目及び配点は表1に示すとおりである。

表1 非価格要素評価項目

評価項目	評価の視点	配点			
①施設全体計画	配置計画、動線計画 (車両動線、歩行者動線、見学者動線)	・搬入者や見学者等の安全確保の対策等がなされているか 施設計画の工夫を評価	6	12	点
	意匠・外観・建築計画	・華美にならない範囲で、周辺施設と調和した施設が提案されているかを評価 ・経済的で効果的な設備計画について維持管理、更新性の工夫を評価	6		
②施設の安定性	施設の運転計画(操炉計画)	・本施設の施設規模算定根拠が適切に設定されているか ・ごみの安定処理を行うための操炉計画の適切性を評価	7	28	点
	施設の維持管理計画	・施設を30年間以上使用するための事業期間中の工夫について評価	7		
	ごみ量、ごみ質変動時の対応(工夫) ※部分負荷に係る性能曲線図等	・ごみ量、ごみ質の変動時において、安全かつ効率的にごみ処理及び発電を行うための運転管理上の低コスト化の工夫を評価 ・基準ごみ時における部分負荷特性を評価(定格処理能力を発揮できるごみ質の範囲について評価)	7		
	運転体制、人員配置計画の考え方	・円滑な施設運営を行うための人員配置が提案されているかを評価	7		
③省エネルギー化対策	余熱利用計画及び発電計画	・余熱利用計画の内容及び回収熱量、熱回収率、有効利用熱量等を評価 ・発電計画の内容を評価	5	10	点
	焼却灰排出量(t/ごみt)、飛灰排出量(t/ごみt)の低減対策	・ごみ1tあたりの焼却灰排出量、飛灰排出量及びその低減対策について評価	5		
④SPCの収支計画の安定性	SPCのキャッシュフロー計画	・SPCのキャッシュフローにおける手元資金の余裕度等について評価	2	4	点
	SPCのリスクヘッジ方策	・代表企業、構成企業、協力企業のそれぞれの役割とリスク対策について評価 ・SPCのリスクヘッジ方策について評価	2		
⑤付加的地域貢献	地元に対しての付加的地域貢献	・地元貢献、地元還元、環境学習支援等について、自由提案を評価	6	6	点
合計			60	点	

② 評価項目の採点基準

各評価項目において、次に示す5段階により評価、点数化する。

評価	評価内容	採点の算出方法
A	特に優れている	項目ごとの配点×1.00
B	AとCの間	項目ごとの配点×0.75
C	優れている	項目ごとの配点×0.50
D	CとEの間	項目ごとの配点×0.25
E	要求水準を満たす程度	項目ごとの配点×0.00

(3) 予定価格

組合では、予定価格を次のとおり設定し、事前公表とする。

予定価格

建設費 11,000,000,000 円（消費税及び地方消費税の額を含む。）

運営委託料 10,000,000,000 円（消費税及び地方消費税の額を含む。）

(4) 価格審査

価格審査点の配点は、40点とする。

価格審査点については、以下の方法で得点を算定する。

なお、点数は、小数第2位を四捨五入して小数第1位まで求める。

<p>【価格審査点の算出式】</p> $\text{価格審査点} = 40\text{点} \times \frac{\text{最低入札価格}}{\text{入札価格}}$

(5) 落札候補者の決定

(2)で決定した非価格要素審査点に(4)で決定した価格審査点を加えて総合評価点を算定し、最も高い点数の者を落札候補者とする。なお、総合評価点の最も高い点数の者が2者以上あるときは、くじ引により落札候補者を決定する。

3. 選定委員会の開催及び審議

年 月 日	主 な 内 容
平成28年11月30日（水）	第1回選定委員会 本事業の概要、実施方針（案）、事業者選定スケジュールについて審議。
平成29年2月21日（火）	第2回選定委員会 入札説明書（案）、要求水準書（案）、落札者決定基準書（案）について審議。
平成29年3月29日（水）	第3回選定委員会 様式集（案）、落札者決定基準書（案）、基本協定書（案）、建設工事請負契約書（案）、運營業務委託契約書（案）について審議。
平成29年10月4日（水）	第4回選定委員会 非価格要素ヒアリング、非価格要素審査及び価格審査、総合評価を実施し、落札候補者を決定。
平成29年11月1日（水）	第5回選定委員会 審査講評（案）について審議。

4. 審査結果

1) 資格審査

表2に示す応募者から参加資格申請があり、資格要件を満たしていることを事務局にて確認した。

表2 応募者一覧

代表企業	応募者を構成する企業（代表企業を除く）	
荏原環境プラント株式会社 （けやきグループ）	構成員	-
	協力企業	株式会社イトウ
JFEエンジニアリング株式会社 （わさびグループ）	構成員	株式会社武井組 JFE環境サービス株式会社
	協力企業	-

選定委員会においては、総合評価終了まで企業名は開示することなく、荏原環境プラント株式会社を代表企業とする応募者をけやきグループ、JFEエンジニアリング株式会社を代表企業とする応募者をわさびグループと呼称して審議を行った。

2) 競争的対話

応募者に対して、以下のとおり競争的対話を実施した。

実施日：平成29年7月10日（月）

会場：穂高クリーンセンターし尿処理施設2階会議室

実施要領：プレゼンテーション60分間

提案概要書の内容（独自のものなど）について確認	20分
事務局からの質問	20分
応募者からの質問	20分

3) 提案審査

資格審査を通過した応募者から、提出された技術提案書の審査を実施した。

(1) 基礎審査

提案内容が要求水準書等に規定された性能要件を満足できるか否かの審査を事務局にて行った。

その結果、全ての要件に適合していると確認した。

(2) 非価格要素審査

非価格要素審査は、評価項目ごとに選定委員会が採点する方法により実施した。

また、非価格要素審査にあたっては、選定委員会によるヒアリングも次のとおり実施した。

実施日：平成 29 年 10 月 4 日（水）

会場：穂高クリーンセンターし尿処理施設 2 階会議室

実施要領：プレゼンテーション 30 分以内

質疑 30 分間程度

（応募者 1 者あたり合計で約 60 分以内とした。）

非価格要素審査の結果を表 3 に示す。

非価格要素審査の講評を表 4 に示す。

表3 非価格要素審査結果

評価項目		評価の視点	配点	けやきグループ		わさびグループ		
①施設全体計画	配置計画、動線計画 (車両動線、歩行者動線、見学者動線)	・搬入者や見学者等の安全確保の対策等がなされているか施設計画の工夫を評価	6	4.3	7.9点	3.6	8.5点	
	意匠・外観・建築計画	・華美にならない範囲で、周辺施設と調和した施設が提案されているかを評価 ・経済的で効果的な設備計画について維持管理、更新性の工夫を評価	6	3.6		4.9		
②施設の安定性	施設の運転計画(操炉計画)	・本施設の施設規模算定根拠が適切に設定されているか ・ごみの安定処理を行うための操炉計画の適切性を評価	7	5.0	20.1点	5.3	19.4点	
	施設の維持管理計画	・施設を30年間以上使用するための事業期間中の工夫について評価	7	4.8		5.0		
	ごみ量、ごみ質変動時の対応(工夫) ※部分負荷に係る性能曲線図等	・ごみ量、ごみ質の変動時において、安全かつ効率的にごみ処理及び発電を行うための運転管理上の低コスト化の工夫を評価 ・基準ごみ時における部分負荷特性を評価(定格処理能力を発揮できるごみ質の範囲について評価)	7	5.0		4.8		
	運転体制、人員配置計画の考え方	・円滑な施設運営を行うための人員配置が提案されているかを評価	7	5.3		4.3		
③省エネルギー対策	余熱利用計画及び発電計画	・余熱利用計画の内容及び回収熱量、熱回収率、有効利用熱量等を評価 ・発電計画の内容を評価	5	3.0	6.0点	4.6	8.2点	
	焼却灰排出量(t/ごみt)、飛灰排出量(t/ごみt)の低減対策	・ごみ1tあたりの焼却灰排出量、飛灰排出量及びその低減対策について評価	5	3.0		3.6		
④SPCの収支計画の安定性	SPCのキャッシュフロー計画	・SPCのキャッシュフローにおける手元資金の余裕度等について評価	2	1.4	2.8点	1.2	2.5点	
	SPCのリスクヘッジ方策	・代表企業、構成企業、協力企業のそれぞれの役割とリスク対策について評価 ・SPCのリスクヘッジ方策について評価	2	1.4		1.3		
⑤付加的地域貢献	地元に対しての付加的な地域貢献	・地元貢献、地元還元、環境学習支援等について、自由提案を評価	6	4.1	4.1点	4.3	4.3点	
合計			60点		40.9点		42.9点	

表4 非価格要素審査の講評

評価項目	評価内容	
① 施設全体計画	<p>配置計画、動線計画 (車両動線、歩行者動線、見学者動線)</p> <p>意匠・外観・建築計画</p>	<ul style="list-style-type: none"> 両グループとも配置計画、動線計画について、来場者の安全に配慮した提案がなされていた。 「けやきグループ」は、大人数の見学者にも対応できるように工夫された見学者動線を提案されており、評価された。 両グループとも意匠並びに将来的な維持補修の容易性を兼ね揃えた提案がなされていた。 「わさびグループ」は、周辺施設との調和が図られたデザインであり、高く評価された。
② 施設の安定性	<p>施設の運転計画(操炉計画)</p> <p>施設の維持管理計画</p> <p>ごみ量、ごみ質変動時の対応(工夫) ※部分負荷に係る性能曲線図等</p> <p>運転体制、人員配置計画の考え方</p>	<ul style="list-style-type: none"> 両グループとも適正かつ安定的なごみ処理が可能な施設規模が提案されていた。 「わさびグループ」は、施設規模の考え方が本組合の過去の実績に基づき、年末年始等のごみ受入体制も反映されており、評価された。 両グループとも30年間のプラント使用を前提にした維持管理計画が立案されていた。 両グループとも、ごみ量、ごみ質変動時においても、補助燃料を最小限とする計画が立案されており、評価された。 両グループとも、円滑な施設運営を行うための人員配置計画が評価された。 「けやきグループ」は、教育、研修体制が具体的に立案されており、高く評価された。

評価項目		評価内容
③ 省エネルギー化対策	余熱利用計画及び発電計画	<ul style="list-style-type: none"> 両グループとも、発電効率を最大化するための運転計画が立案されていた。 「わさびグループ」は、過去の導入実績に基づき、より積極的な発電計画（熱回収率及び発電電力量）が提案されており、高く評価された。
	焼却灰排出量(t/ごみt)、飛灰排出量(t/ごみt)の低減対策	<ul style="list-style-type: none"> 両グループとも、焼却灰、飛灰排出量を低減するための、具体的な提案がなされており、評価された。 「わさびグループ」は実績に基づいた具体的な残渣量低減対策が提案されており、評価された。
④ SPCの収支計画の安定性	SPCのキャッシュフロー計画	<ul style="list-style-type: none"> 両グループとも、適切なキャッシュフロー計画が立案されており、評価された。
	SPCのリスクヘッジ方策	<ul style="list-style-type: none"> 両グループとも、リスクヘッジ方策について、具体的な提案がなされており、評価された。
⑤ 付加的地域貢献	地元に対しての付加的地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> 両グループとも、地元企業への発注、地元人材の雇用に対する配慮がなされており、評価された。

(3) 価格審査

落札者決定基準に基づき、応募者から提出された入札価格について点数化を行った。
価格審査点は、表5のとおりである。

表5 価格審査結果

(税込)

応募者		けやきグループ	わさびグループ
配点		40	
入札価格 (円)	建設費	9,450,000,000	10,044,000,000
	運営費	8,201,520,000	7,916,400,000
	合計	17,651,520,000	17,960,400,000
価格審査点		40.0	39.3
予定価格 (円)	建設費	11,000,000,000	
	運営費	10,000,000,000	
	合計	21,000,000,000	

(4) 総合評価

非価格要素審査点と価格審査点を加算し、総合評価した結果表6のとおり「わさびグループ」を落札候補者に決定した。

表6 総合評価結果

応募者	けやきグループ	わさびグループ
非価格 要素審査点 (①)	40.9	42.9
価格審査点 (②)	40.0	39.3
総合評価点 (①+②)	80.9	82.2

5. 総評

本事業の応募については、2者から提案書類の提出を受け、選定委員会は、前述した審査の方法により厳正かつ公正に審査を実施しました。応募者からの提案内容には、それぞれの創意工夫が非常に多く含まれており、華美にならない、周辺施設と調和、安全安心を担保しつつ経済的で効果的な設備計画、施設を30年間以上使用するための事業期間中の工夫など、従来の類似案件に比べてより前向きな提案を求めたことに対し、それぞれ意欲的に応えた提案が行われました。その他の提案においても、技術面、運営面において、本事業の要求水準を十分に上回る優れた提案であり、今回の応募者の方々には、選定委員会として、深く敬意と謝意を申し上げます。慎重な審査の結果、落札候補者が僅差で決定されました。

落札候補者に選定した「わさびグループ」に対して、選定委員会は、意欲的な提案内容を誠実に履行されるとともに、本事業を適正かつ円滑に実施していかれることを期待します。また、以下の事項に十分に配慮した上で本事業を実施するよう希望します。

- 安全・安心・安定稼働を前提とし、長期運営を踏まえた設計・建設に配慮すること。
- 高効率ごみ発電を継続し、発電量・売電量を高めること等により温室効果ガス排出削減に努めること。また、将来的にごみ量が減少した場合でも、施設運営の最適化に努めること。
- 設備面のみならず運営面においても、売電電力量の最大化に努めること。
- 想定される大人数の見学者に配慮した、見学者対応を実施すること。
- 地元貢献については、提案内容を確実に履行するとともに、地元雇用の拡充など、より一層地元経済の発展に努めること。

最後に、組合及び落札候補者の両者に対しては、経済性、省エネルギー性、温暖化対策も踏まえ、本事業が穂高広域施設組合圏域の住民の生活に資するよう、先進的な施設運営を意欲的に行われること、本組合圏域のみならず対外的にも住民の誇れる施設として情報発信されること、また、長期間に及ぶ本事業の実施について、双方が信頼と誠意をもって、相互に協力し、本事業の推進に努められることを希望します。

以上

平成 29 年 11 月

穂高広域施設組合 新ごみ処理施設整備・運営事業者選定委員会
委員長 堀尾 正靱